

七大戦・一橋戦 部便り

目次

1. 七大戦 講評
2. 七大戦 試合経過
3. 一橋戦 講評
4. 一橋戦 試合経過
5. 試合結果
6. 自己記録更新者一覧
7. 2015年度部内五傑
8. 主務より

1. 七大戦 講評

主将・藤田旭洋

七大戦ですが非常に残念ながら男子総合は2位、女子は7位。男子は上位校に得点が集中する接戦のなか、東大はところどころで取りこぼしがある一方、京大は着実に点数を積み上げ、結果的に思った以上の差をつけられてしまいました。

一方、個人の記録では好記録も生まれました。走幅跳で2年西村が7M56で日本インカレ参加標準突破、200Mで4年稲葉が21秒44、同じく西村が21秒50。200Mは歴代2位、3位、4位が全て今期の記録となります。

続く一橋戦及び女子三大戦については、こちらは男子優勝、女子は二位。八月とは思えない気温、また雨の中、好記録は出ませんでした。1年近藤が5000Mで14分30秒台の大会新。終始一人旅のため中盤から徐々にペースが落ちてきましたが競り合う相手がいれば14分10秒台のベストも期待できるような走りでした。

続く大きなイベントは日本インカレと京大戦です。日本インカレでは入賞者最低一名を目指すと共に京大戦では七大戦の雪辱を果たすべく練習に励んで参ります。

女子主将・宮崎愛里香

今回の七大戦では、女子は400mのほか得点できず、総合7位という結果に終わりました。各部員が自分の種目で活躍することを目

標としてきましたが、他大学の選手のレベルも高く、4点制という厳しい点数争いの中で、実力面で及ばなかったのは事実であり、しっかりと現実を見なくてはならないと思います。

一方で、2年坪浦の400m優勝などを見ると、これまでの練習が結果に繋がりがつつあることが伺え、また、殆どの1年生は今回が初の対校選手としての出場で、伸びしろがあります。秋以降、特に京大戦に向けて、今回感じた実力不足を克服し、各々が自分の専門種目で、自分がエースとして戦うのだという意識を持ち、実際に他大学の上位選手と戦って勝つため、部員一同努力します。来年以降、インカレや七大戦といった大きな試合でこれまで以上に女子部員が活躍していくためにも、人数が少ないからこそ全員がエース級の選手になれるよう、力をつけて行きたいと思えます。今後とも応援をよろしく願いいたします。

2. 七大戦 試合経過

◎トラック種目

8/1(土)

15:50 男子 5000mW 決勝

宇野(3年)の出場。5000mWが対校種目となったのは今年からだったが、気温30度を超える厳しい暑さの中でのレースとなった。記録上では1位、2位が抜け出していた。宇野は3位につけていたが、4位との差は16秒と混戦が予想された。

15時51分ほぼ定刻通りにレースがスタート。集団後方からのスタートとなった。京都大の選手が抜け出る中、宇野は大阪大、東北大、北海道大の三選手と共に2位集団を形成。2000m付近まで熾烈な2位争いを繰り広げたが、2600m手前で北海道大の選手が抜け出し、宇野は東北大の選手と共に3位集団となった。その後東北大の選手と一進一退の攻防となったが、3400mを過ぎる頃には東北大の選手についていけず離される。その後は一人での歩きとなったが、応援の中必死に歩を進め、23' 37" 29の4位でゴール。

今年の七大戦、最初の対校戦となった5000mW、応援にも熱が入り、宇野も懸命なウォークをみせたが、残念ながら得点には絡めなかった。しかし、宇野のウォークは二日目の他の対校選手へのいい刺激となったことだろう。

8/2(日)

9:30 男子 3000mSC 決勝

4レーンに福島(3年)、12レーンに伊藤(4年)の出場。七大戦二日目最初の対校であり、チームを勢いづける意味でも2人共6位以内入賞を目指して臨んだ。30度近い快晴の下14人でレースは始まった。スタート直後、先頭は10人ほどの集団となり2人はその前方についた。1000mを3.13で通過し福島は三番手付近であったが、伊藤はこのあたりで集団から離れ始めてしまう。

2000付近で先頭がばらけ始め、福島は5番

手につく。伊藤は肩が上がりきつそうになり、先頭との距離を広げてしまう。この間の1000mは福島3.20、伊藤3.30であった。ラストパートでは、福島の前に行く四人が激しい争いをし、福島は少し離されてしまうが、意地を見せ食らいついた。惜しくも前の四人を抜くことはできなかったが、ラップは3.02と粘りの走りをし、9.36.08で5位入賞を果たした。一方伊藤はラストの1000も3.41と大きくペースダウンしてしまい、結果は10.25.93で12位となった。

伊藤は一旦先頭から離れてしまい、そこからペースが落ちていったことで本来の実力を発揮することはできない悔しい結果となったが、福島は自己ベストを10秒以上更新し下馬評より一点多く点数を稼ぐことができた。この後長距離では対抗に加えて、箱根予選も見据えていくことになるので、気持ちを切り替えた2人のさらなる活躍を期待したい

9:50 女子 400m 予選

1組8レーンに堀越(1年)の出場。本来は中距離を専門としているが、高校時代400mHに取り組んだ経験もあることから、出場種目の幅を広げるといふ狙いもあつてのエントリーであった。慣れないスターティングブロックからのスタートで出遅れてしまうと、スピードに乗りきることができず、序盤から厳しいレースになる。後半、中距離で養ったスタミナで巻き返したいところだったが、終始動きから硬さがぬぐえず、1'10"14の6着でゴ

ール。初の対校戦で、まだ1年でもあることから、本職での活躍とともに、今後のスピード向上にも期待したい。

2組4レーンには坪浦(2年)の出場。けがから復帰してのレースであったが、事前のランキングでは2位につけているほか、本人も復調に自信を見せており、期待が高まる。前半、アウトレーンを走る選手のハイペースにも乱されず、落ち着いた走りでも順調な滑り出しを見せる。後半に入り周囲の選手に疲れが見える中、ダイナミックなフォームでスピードを落とさず、一気に順位を上げていく。最後の直線に入っても軽やかな足の運びは変わることなく、後続との差を広げ、59"66の1着でゴール。全体トップの記録で決勝に進んだ。

10:05 男子 400m 予選

1組5レーンに小西(4年)の出場。参考記録による事前のランキングでトップにつけ、優勝への期待が高まる中での予選となった。前半からスムーズな加速でアウトレーンの選手を次々とらえトップに立つと、後半は余裕ある走りで順位をキープ。隣のレーンを走るランキング2位の大阪大の選手の追い上げをかわし、48"59の1着でゴール。全体トップの記録で決勝へ進出した。

2組6レーンに河野(2年)の出場。資格記録では12番手であるものの、自己ベストに迫る走りが出来れば表彰台争いも十分に期待できる。前半は伸びのある走りで順調に順位を上げたものの、200m付近に差し掛かったあた

りから失速。後半の追い上げもかなわず、自己ベストには遠く及ばない 52" 35 の 6 着でゴールし、悔しい結果となった。今後の対校戦での活躍に期待したい。

3 組 3 レーンに森本(3 年)の出場。決勝進出のボーダーライン上に位置しており、予選通過と得点獲得が望まれた。前半は抑えたペースで入り、後半に大きく追い上げるとい得意のパターンでレースを展開。200m 過ぎから失速する他校の選手たちに一気に迫り、目を見張る後半の伸びで次々ととらえると、残り 50m ほどでトップに立つ。そのまま減速することなく 49" 70 の 1 着で決勝へ進んだ。

10:30 男子 400mH 予選

男子 400mH 予選は、1 組 6 レーンに宮原(4 年)の出場。宮原は先の四大戦でも全カレ標準を突破し、大会記録を更新して優勝しており、今大会でも高得点が期待されていた。OB・OG の方々との懇親会においても更なる記録更新への意気込みを述べており、本人の気合も十分であったことだろう。予想を裏切らず、スタート直後に飛び出し他の 6 人に差をつけると、ホームストレートに入った辺りから後ろを確認して流すほどの余裕を見せて、危なげなく 1 着(54" 27)でゴールした。

2 組は 5 レーンに加来(3 年)の出場。加来は、本来は本種目の選手であるにも関わらず対校戦では 110mH に出場しつづけてきており、やっと自分の出たかった種目に出られるとのことで、本人のモチベーションは十分だ

ったと見える。レースは、序盤・中盤で後れを取るも、最後の直線で追い上げを見せる。しかし、必死のラストスパートも空しく悔しくも 5 着(55" 47)で予選敗退に終わった。

3 組は 5 レーンに兄井(2 年)の出場。兄井は髪を染めて闘志全開、宮原に続いての予選突破に期待がかかる。1 人棄権しての 6 人でのレースは終始混戦状態。兄井も軽快な走りですぐに食らいつく。ラストでは疲れが見えたものの粘りの走りで見事 2 着(55" 04)。予選突破を果たした。

10:55 女子 100m 予選

1 組 7 レーンに笠村(3 年)の出場。4 年生に短距離の女子がいないため、彼女が現短距離女子のトップであり、組 3 着までが必ず決勝に進めるため、決勝進出も期待される。そしてレースがスタート。隣の 6 レーンの大阪大の選手にスタートで飛び出されるが、焦ることなく落ち着いた走りで加速していく。中盤で 3 番手までとは離されてしまうが、スピードを落とすことなく徐々に 4 番手の選手を追い上げる。最後まで差を縮めていったが、追い抜くことはできず結果 5 着でのゴールとなった。記録は 13"50 で、この時の風は-0.5m であった。

続いて、2 組 8 レーンに高橋(2 年)の出場。高橋はこれが怪我からの復帰戦であり久々のレースとなるため、不安はもちろんあるだろうが、良い結果を期待したい。こちらも一斉にスタート。スタートで出遅れてしまい、トッ

プとは差がついてしまうが、加速局面以降は立て直し徐々にスピードに乗っていく。6位の選手が後半減速していく一方で、大きくスピードを落とすことなくそれを追っていく。しかし追いつくことはできず、7着でゴールした。記録は13"96で、この時の風は-0.6mであった。

今回この種目では決勝に進むことができず、笠村に関しては0.03秒差で逃したので非常に悔しい結果ではある。しかし対校選手は全て3年生以下であり、しかも高橋に関しては怪我からの復帰というタイミングでの試合であるため、女子パートにとって非常に意味のある試合であったことに間違いはないだろう。

11:05 男子 100m 予選

1組6レーンに藤田(4年)の出場。事前のランキングでは全体の2位につけており、高得点の獲得と、自身の持つ東大記録の更新が期待される。号砲が鳴り一回でスタート。少しバランスを崩したようにも見えたが、それほど出遅れずに走り出す。前半は2位以下が横一線だったが、50m過ぎから力強い走りで単独2位に躍り出る。そのまま最後は少し流す形でゴールインし、決勝に進んだ。10"89の組2着であった。この時の風は+0.2mであった。

2組5レーンに泉(4年)の出場。先月の四大戦で10秒台の記録をマークし、事前のランキングでは5位につけている。少しでも上の順位をとることが期待される。この組も一斉にスタート。泉は得意のスタートで飛び出し、ト

ップとなる。そのままグングンと加速し、徐々に後ろとの差が開いていく。ラスト20mで2番手の選手に少し迫られるが、それでもトップを譲らずにゴールした。11"06の組1着で、決勝に進出した。この時の風は-1.6mであった。

3組6レーンに稲葉(4年)の出場。先に出場した2人がそろって決勝に進んだためこちらも予選突破が期待される。号砲で一斉にスタート。隣の東北大の選手に少し先行されるが、慌てることなく加速していく。2位争いは3レーンのお阪大の選手との二人に絞られたが、最後はトップを追い上げつつ2着でゴールインし、見事、東大勢3人揃っての決勝進出を決めた。この時の記録は10"88で、この時の風は-1.1mであった。

11:25 男子 1500m 決勝

小南(4年)、西川(4年)、近藤(1年)の出場。近藤はランキング2位で、小南、西川も得点を狙える位置にいた。非常に暑い環境ではあったが、レース展開次第で誰にでも得点が可能であり、小南、西川がどれだけ得点に絡んでいけるかが注目された。

号砲。近藤が一旦先頭に出たが、その後、集団の中に入る。西川、小南も中盤からやや前の位置につける。400mの通過は62"。500m付近で近藤が2番手に上がる。西川が、中盤よりやや前、小南が中盤よりやや後ろという位置でレースが進む。800mの通過は2'08。1000m手前で、近藤が引っ張る大きな先頭集

団が形成され、小南が少し遅れる。残り 400m の時点で、先頭が近藤、2 番手が京大の平井だ。西川は 7 番手、小南は 13 番手でラスト 1 周を通過。残り 300m でさらにペースが上がり先頭集団は 7 人に絞られる。ここで西川が少し遅れた。そして、勝負はラスト 100m までもつれ込む。最後のスパート合戦を制したのは、京大の足立で、近藤は惜しくも 2 位。西川は 8 着争いで競り負けてしまい 9 位。小南は最後まで粘りを見せるも 11 位に終わった。結果は、近藤が 3'56"05 で 2 位、西川が 4'02"51 で 9 位、小南が 4'07"25 で 11 位だった。

近藤は前評判通りの結果で、西川、小南は後一つ力が足りなかった。各大学の得点は、京大 11 点、東大 5 点、阪大 3 点、九大 2 点ということで、京大に完敗を喫してしまった。このままでは京大戦を十分に戦えないので、もう一段実力をつけることが求められる。

12:00 男子 400m 決勝

4 レーンに森本(3 年)、6 レーンに小西(4 年) の出場。気温が上昇する中、厳しい日程での 2 本目のレースとなったが、予選タイムでは小西がトップ、森本が 6 番手につけ、高得点への期待が高まる。

レースは対照的な展開。小西は序盤から果敢に飛ばし、一気にトップに立つものの、予選でも競り合った大阪大の選手が追い上げ、2 人が抜け出して一騎打ちの構図になる。最後の直線に入った段階ではほぼ差がない状態。両者苦しい表情で、一步も譲らない競り合い

が続く。しかし残り 20m 付近でついに小西が抜け出し、48" 17 の 1 位でゴール。見事期待通りの優勝を果たした。一方後半に絶対的な力を持つ森本はゆったりと入り、200m 付近での最下位から巻き返しを図る。前半ハイペースで突っ込み減速する 2 人の選手を、衰えないスピードで次々ととらえていく。終盤はさすがに苦しい動きとなり、さらに順位を上げることはできなかったが、50" 21 の 6 位でゴール。事前のランキングをひっくり返し、見事に得点を獲得した。

この結果、東大は 7 点を獲得。大阪大の 8 点には及ばなかったが、想定より 1 点多くの得点を得た。3 年と 2 年の選手がこの舞台で経験を積めたことは新チームにとっても有意義であったと言えよう。今後の成長が期待される種目である。

12:15 男子 110H 予選

1 組 8 レーンに 2 年寶田の出場。ランキングでは 17 位と少し入賞には遠い位置にいるが、なんとか決勝へ進みたいところ。本人曰く調子はいいとのことであり、オープン 100 メートルでは自己ベストを更新しておりブレイクスルーに期待がかかる。

寶田、初めのスタートは他大の選手に遅れることなくうまく出る。しかし 1、2、3 台目と足を引っかけてしまう。うまくスピードに乗れないままレースが進む。結果は 15" 85(-1.2)で 5 着と申請記録を上回るタイムではあったが惜しくも決勝へは進めなかった。

2組8レーンに3年加来の出場。加来もランキングでは18位と入賞には遠い位置にいる。また加来は同日の400mHにも出場しており、その疲労がどのように影響するのかと思われる。加来も竇田と同様にスタートはうまく出ることができた。しかしハードルを飛ぶごとに他大の選手との差が開いていく。その差を縮めることなくゴールとなった。記録は6着の16”26(0.0)であった。

3組3レーンに6年杉森の出場。杉森はランキングでも7位であり入賞に期待がかかる選手だ。1台目からみごとなハードリングで他大の選手に差をつける。その後も安定したハードリングをみせ無事2着の15.70(-1.3)でゴールであった。決勝へは進出できたが全体10位の記録であり入賞にむけてはさらに記録を伸ばす必要がある。記録の向上が期待される。

12:40 男子 100m 決勝

3レーンに稲葉(4年)、6レーンに泉(4年)、8レーンに藤田(4年)の出場。1時間半前に行われた予選を見事勝ち抜き、事前のランキングでも2、3、5位につけているため、大量得点の獲得が期待される。

向かい風の中、競技場が静寂に包まれレースがスタート。まずは予選と同じく泉が飛び出す、やはり決勝ということだけありそれほど先行はできず、逆に5レーンの選手に差をつけられてしまう。稲葉も安定したスタートで走り出し、4レーンの東北大の選手に先行

されるも落ち着いた走りで加速していく。藤田はスタートこそ他の選手から少し遅れをとったものの、予選と同じく力強い走りで追いつけていく。泉は、40m付近から2位までの選手と差が開き始めてしまうがそれでも粘りの走りを見せる。藤田も後半、素晴らしい加速で前の選手を後方から追い抜いていく。稲葉は80m付近で2レーンの選手を抜き去り、5レーンの選手との2位争いになるが見事に競り勝ち、2着でゴールした。藤田は後半の追い上げが爽り5着でゴール、後半粘った泉も着差ありの7着でゴールした。記録は稲葉が10”95で2位、藤田が11”09で5位、泉が11”15で7位であった。この時の風は-2.6mであった。

終わってみれば2、5、7位とランキングよりも順位を落としてしまい、予想通り、もしくはそれ以上の点数を獲得できなかったのは悔いが残る結果ではある。しかし、七大戦という舞台で対校選手3人が全員決勝に進んだのは素晴らしいことであり、このあとの東大勢の試合に覇気をもたらしたのは間違い無いであろう。

12:50 女子 800m 決勝

荒木(1年)と河原(3年)が出場する予定であったが、直前に河原が体調を崩してしまい無念の欠場。荒木は持ちタイムからすると入賞争いに加わるのは厳しい状況であり、30度を超える気温の中、自分との闘いが問われるレースになった。

号砲と同時にスタートするが少し出遅れてしまい、100m地点は12位で通過する。しかしそこからバックストレートで加速して前に追いつき、200mの通過では9位集団の中に入った。そのまま名大の2人との集団で1周目を終え、この通過は70秒であった。ここで一段スピードが上がった周囲についていけず、500m地点では11位に後退してしまう。さらに、600m地点で急激にスピードが落ちる。650m地点でも一人に抜かれ、ホームストレートで必死に追い縊ろうとするも届かず、2'43"80の12位でのフィニッシュとなった。

1周目と2周目とのラップの差が20秒以上と、オーバーペース気味ではあったが、逆に言えば積極性が示されたレースだった。荒木は貴重な経験として次に繋げて欲しい。また河原も、今回出場できなかった悔しさをバネにした京大戦での奮闘が期待される。

13:00 男子 800m 予選

1組6レーンに加藤(3年)、2組8レーンに早川(2年)、3組5レーンに軽部(3年)の出場。1組の加藤は全体のランキングでは5番手であり、決勝への進出が期待される。ブレイク後、先頭のすぐ後ろにつけ様子をうかがう。300m地点で一時6番手に落ちるも二週目の第1,2コーナー、バックストレートで徐々に順位を上げラスト200m地点で先頭に出る。しかし最後の直線では順位を2つ落とし、最終的に1'58"26の組3着で予選敗退となった。

2組の早川は組の中ではランキング6番手だが、少しでも上を目指してプラスでの決勝進出を決めてほしい。ブレイク後は4,5番手につけ、集団が崩れないまま2周目へ。ラスト200m地点手前から先頭がペースを上げ、遅れ始める。第4コーナーで6番手に落ち、そのまま2'00"19の組6着でフィニッシュ。予選敗退となった。

3組の軽部は全体のランキングでは2番手で、組1着での決勝進出が期待される。ブレイク後、3,4番手につける。400m地点までその位置をキープし2周目へ。徐々に先頭集団と離れ始める。バックストレートで一人かわして3番手に上がるも2番手の選手とはかなりの差が開いており、最後の直線でのスパートでも追いつけずに1'56"50の組3着でゴール。プラス2人のうちの1番手で決勝進出を決めた。

13:35 男子 400mH 決勝

男子400mH決勝は4レーンに宮原(4年)、8レーンに兄井(2年)の出場。午前に行われた予選から十分時間がたっており、選手たちのコンディションは悪くないように見える。前評判としては、宮原が優勝。兄井がどこまで得点していけるかが勝負どころであった。

レースは、宮原が余裕の優勝かと思いきや、6レーンの選手との大接戦。中盤までは後れをとったが、ホームストレートで驚異的な追い上げを見せて追い抜き、予想通り優勝を勝ち取った。タイムは52"20であった。一方、

兄井は最初のハードルに少し引っかかりスピードを落とすも持ち直し、最終コーナーでは3~6位を争う集団に食らいつく。そして、ラストでは持ち前の粘り強さを見せ、前を走る選手との差を詰めていくも4位の選手には僅差で追いつかず、結果は5位(54" 42)であった。

結果として、宮原・兄井両人が得点し、男子400mHでは7大学中最高の8点を東大にもたらした。その内6点を獲得したのは4年の宮原だが、残り2点は2年の兄井による得点であり、これからのより一層の活躍が期待される。

13:45 男子 200m 予選

1組2レーンに藤田(4年)の出場。足首を痛めていたということで心配されていたが、100m予選では決勝に駒を進めており大丈夫そう。この200mでも決勝進出が期待される。前半はリラックスして走り、カーブを抜けた時には3位。しかしそこからスピードを上げ2位に上がる。外側のレーンから迫ってきた京大の選手からも逃げ切り、22" 01の二着でゴール。決勝進出を決めた。風は-0.6だった。

2組1レーンに稲葉(4年)、参考記録で上位につけており決勝進出が期待される。号砲と同時に飛び出し、好スタートを切る。リズムよく走り、カーブ出口で外側の選手たちを抜く。ラスト50mでも減速することなく走り切り、21" 44の一着でゴール。自己ベストを約0.3秒縮め、決勝に進出。風は-0.9であった。

3組2レーンに西村(3年)の出場。200mは久しぶりの出場であるが、100mを安定して10秒台で走る選手であり、実力は申し分ない。決勝進出が見込まれる。前半から飛ばしている、わずか20mで3レーンの選手を捉える。カーブ出口手前でもう一段階スピード上げ、一位につける。最後はのびのびと走り、自己ベストの21" 50の二着でゴール。危なげなく決勝進出を決める。風は-0.4だった。

14:00 女子 3000m 決勝

高石(1年)、黒岩(1年)の出場。14時スタートで、真夏の陽光が降り注ぐ灼熱のなかでのレースとなった。高石、黒岩ともに初の対校選手で、事前のランキングでは下位であったが、二人とも大学から陸上を始めており、その伸びしろに期待がかかる。

スタート直後から他の対校選手のスピードについていけず2人遅れることとなる。100mを過ぎたところで高石は前の縦長の集団に少し遅れてついていく。黒岩は1人となってしまふ。その後、高石は集団から離されるものの、必死で前の京大の選手を追い、4週目途中で追い抜かず。高石はその後、目の前の九大の選手に追いつき抜かしたが、相手も必死で粘り、2周以上にわたり抜きつ抜かれつの競り合いを繰り返す。その間黒岩は、灼熱の中の一人旅という苦しい展開ながらもペースを維持し、徐々に前の京大の選手との差を詰めていく。高石は必死で九大の選手との競り合いを続けたものの、ラスト100mからの相手

のスパートに対応できず、11'23"03の11位でフィニッシュ。黒岩はラスト1周に入るとスパートでさらに前の京大の選手との差を詰め、ラスト100mからの意地のスパートで京大の選手をかわし、11'47"85の12位でゴール。

今回は他大の選手のスピードに対応できなかったが、二人とも初心者であるため、この対校戦の経験を生かしての今後の飛躍に期待がかかる。

14:20 男子 4×100mR 決勝

8レーンに泉(4)・西村(3)・稲葉(4)・藤田(4)の走順で出場。試合は14時頃で気温は35度近く、日差しも強かった。4継の対校戦としては関東インカレ以来、久しぶりのベストメンバーであり、大会記録を出しての1着が期待された。

1走の泉は四大戦opでPBを更新して10秒台に突入するなど調子を上げてきており、今回の対校100mでも決勝に残っている。持ち前の良いスタートをきって序盤から他校をリードし、トップを争いながら2走西村へスムーズにバトンパス。西村は関カレ以来の4継であるが、午前幅跳びで全カレを決めた勢いそのまま3年エースの走りを見せたいところ。しかし、この後の200m決勝で足がつったように、他種目出場の中での疲労が影響したのだろうか、今一つスピードに乗り切れず、内側の京大に差をつめられる。そして稲葉へのバトンは渡す直前で足がもつれてしまい口

スが生じた。200m予選でベストを出し、絶好調な稲葉がカーブで競り合うもリードを許し4走の藤田へ。怪我をして以降は万全とはいえない藤田だが、主将として迎える最後の対校戦に勝つためにも懸命に前の京大を追った。結果は41"21の2着であった。

今回は強敵京大に屈してしまっただが、京大と同じく東大の4継にはまだ全カレという大舞台が残っている。次の大会へと気持ちを切り替え、また4継メンバーを見ても現在主力の4年生を超えていく下級生が現れることが急務であろう。

14:30 女子 400m 決勝

4レーンに坪浦(2年)の出場。予選でトップの記録をマークしており、優勝にもっとも近い存在としてレースに臨む。

スタートからスムーズに加速すると、インレーンの選手を置き去りにし、バックストレートでも力みのない走りで順調にスピードに乗る。そのまま200m付近でトップに立つと、コーナーからも盤石な走りで独走態勢に。ピッチを落とすことなく他を圧倒するスピードで後続との差を広げていく。ホームストレートで東北大と大阪大の選手が懸命に追ってきたものの、最後まで差は詰まらず、大学ベストを更新する58"76の1位でゴール。2位以降に0.7秒以上の大差をつける完勝であった。これで東大は今大会唯一の4点を獲得した。けがから復帰したあとの初戦に厳しい暑さも加わるという過酷な状況の中で果たした今回

の見事な優勝は、本人にとってもチームにとっても大きな価値のあるものであった。女子パートは人数も少なく、対校戦では厳しい戦いを強いられることも多い。しかし今回の走りを通じ、努力の方向性の正しさが示されたともいえるのではないだろうか。この優勝を弾みとして、女子パート内での相乗効果が高まり、今後、さらに成長が進むことを期待したい。

14:45 男子 800m 決勝

2レーンに軽部(3年)が出場。強い日差しが照り付ける暑い環境の中でのレースとなった。この時点で京大・阪大に総合得点で先行される状況であり、着実にランキング通りの2位でゴールすることが望まれた。

軽部は良いスタートを切り、ブレイクポイントではランキングトップの京大の選手に続く2番手につけた。その後、バックストレートで先頭に立ち、550m付近まででトップを走った。しかし、600m手前で京大の選手が外側から仕掛けると、軽部はこれに対応している間に外側から九大の選手に抜かれた。さらに京大の選手にも抜かれたが、軽部はこの2人についていくことが出来なかった。ラスト100mでは九大、阪大の選手にもかわされ、1'56"36の5位でゴールした。

今回は男子800mで東大の各選手が実力を発揮できず、対校得点の面でも厳しい結果となった。一橋戦、京大戦に向けて、猛省が促される。

15:00 男子 110mH 決勝

6年杉森、8レーンでの出場。申請記録では15"04での7位であり、入賞するには自己ベストとなる14秒台での走りが必要かと思われる。杉森自身も最近では絶好調であるとのことであり、予選を大きく上回る記録でのゴールが期待される。レースの号砲が鳴る。杉森、2台目で足をぶつけてしまう。ここで大きくフォームが崩れ、続く3台目までに修正しきれず他大の選手に大きく差をつけられてしまった。序盤にスピードに乗りきれなかったことが後半にも響く。巻き返すことができず8着15"81(-1.4)でのゴールとなった。序盤をうまく入れていたらどうなっていたのかと思われる。これからの杉森の活躍、14秒台への到達に期待したい。

15:10 男子 200m 決勝

4レーンに稲葉(4年)、7レーンに藤田(4年)、8レーンに西村(3年)の出場。対校得点では京大、阪大、東大が一位争いをしており、200mでの高得点獲得が目指された。特に予選でいい走りをした稲葉と西村には表彰台に上がることが期待された。スタートの合図と同時に三人は飛び出す。藤田と西村は前半から飛ばしてきた6レーンの選手に捉えられる。カーブ出口で二人は上位争いからは外れた。しかし前半からスピードを出していった稲葉がいい位置につけていた。2位を三人の選手で争う展開となっていた。稲葉は粘り強い走りを

見せ、1レーンの選手には負けてしまったものの5レーンの選手には競り勝ち、21"65の三着でゴール。藤田は序盤で上位争いからは外れてしまったものの、後半には失速の少ないいい走りをして22"07の6着でゴール。西村はゴール手前で足がつってしまい、足を引きずりながらも23"27の8着でゴール。風は-1.0だった。200mの対校得点は5点であった。予選のタイム及び選手の走力から考えれば、8点以上とっておかしくなかったので悔しい結果となった。今後に期待したい。

15:20 男子 5000m 決勝

渥美(4年)、松本(2年)、近藤(1年)の出場。持ちタイムで2位の近藤が1位の京大の平井に食らいつけるか、渥美、松本がポイントを取れるかがこのレースの鍵となる。気温が30度を超え日差しも強い、という厳しいコンディションの中でのレースとなった。

序盤から、近藤と京大の平井の2人が抜け出す。600mで集団が3つになり、近藤は平井の後ろに、第2集団を渥美が、第3集団を松本が引っ張る形に。先頭の2人は1km2'52のペースを2000mまで刻むが、2400mを過ぎたところで近藤が平井に離され始める。また、渥美、松本も少しずつペースを落としていく。3000mの通過は近藤が8'43、渥美が9'05、松本が9'27。3500mで第2集団から名大、京大の2人が抜け出す。渥美はついていけず、逆に集団からも遅れてしまう。近藤は後半、1人で走るもペースを大きく乱すこと

なく14'51"86の2位でゴール。渥美は暑さの影響もありペースが落ち、15'30"08の10位でゴール。最後粘った松本は15'55"86の15位でゴール。

獲得したのは近藤の5点のみとなり、悔しい結果となった。この結果を受け止め、一橋戦や京大戦、箱根駅伝の予選会での活躍を期待したい。

15:45 女子 4×100mR 決勝

8レーンに笠村(3)-石丸(1)-白形(3)-高橋(2)の走順での出場。故障者が続々と復帰し、この七大戦で、今季初めて女子は4継チームを組み出場することが出来た。思うように点数を積み上げられないまま迎えた最終種目で、一矢報いることが期待された。

1走の笠村は、個人の100mで決勝に進めなかった悔しさを晴らすかのように快走を見せる。大きなストライドで内側のチームを引き離していき、石丸へとバトンを渡した。

2走の石丸は先月の四大戦に続く対校のレースとなる。前日のOP100mでは思うような結果を残せなかった今回はどうなるか。バトンを受け取った石丸は快調にスピードを上げていく。しかし内側から各大学の選手も追いついてきて、逆にリードを取られてしまう。さらに、白形へのバトンが上手く渡らずここで東大は大きく後れを取ってしまった。

3走の白形は、幅跳びの選手であるが、今季はスプリント面でも成長を遂げている。バトンにもたついたことでスムーズな加速が出来な

かったが、それでも大きな走りで懸命に前を追う。やや前との差を詰めながら高橋にスムーズにバトンを渡した。

4走の高橋は個人でこそ、怪我明けでベストなパフォーマンスを発揮することは出来なかったが、ここでは持ち前の力強い走りでグングンスピードに乗っていく。ここまでの遅れを挽回するような走りで6番手のチームに迫るが、あと一步のところまで追いつけず7位でゴール。記録は52"63であった。

バトンミスもあり残念な結果に終わってしまったが、メンバーも揃いつつあり今後の対校戦における好成績に向けて、競い合いながら各々成長していくことに期待したい。

15:55 男子4×400mR 決勝

8レーンに兄井(2年)-小西(4年)-森本(3年)-宮原(4年)の走順で出場。全員が今大会、既に個人種目で予選・決勝の2本を走り、かつ得点を獲得している選手である。個人種目の疲れと暑さが心配される場所であるが、優勝と四大戦であと100分の6秒まで迫った全日本インカレの標準記録切りを狙ってのレースとなった。

1走兄井は前に目標のいない8レーンからのスタートであるが、前半から快調に飛ばす。ホームストレートに入りやや疲れたが、粘ってトップに近い位置で2走小西にバトンを繋ぐ。2走は100m地点で5大学がほぼ並ぶ混戦となったが、小西は大外から他大学をかわし一気にトップに立つ。200m手前で後ろの

選手が転倒した際にわずかにバランスを崩したが、最後まで大きく減速せず、後続に大差をつけてバトンを繋いだ。3走森本は前半を落ち着いて入りつつも、他大学の追撃は許さない。終始独走のレースとなったが、得意の後半でさらに後続との差を広げた。バトンを受けた4走宮原は、全日本インカレ800m覇者・京大櫻井らが追走してくる状況下でも慌てず、落ち着いた走りをみせる。ラストはやや疲れたが追い上げは一切許さず、後続と1秒以上の差をつけて1位でフィニッシュ。タイムは3'16"20の大会新記録であった。

大会最終種目であったこの種目での優勝により、東大は阪大の得点を抜いて男子総合2位に浮上したが、全日本インカレの標準記録には届かず、悔しさも残るレースとなった。

◎フィールド種目

8/2(日)

10:00 男子走幅跳 決勝

男子走幅跳には、西村(3年)、深澤(3年)、吉田(3年)が出場。吉田は補欠であったが飯島(6年)があいにく出場できず、代わりに出場することとなった。試合前の持ち記録では、西村が4位、深澤が8位であった。前日のOPに引き続き、非常に風の強い中での試合となった。2番目の試技者として登場した西村の1本目、踏切はぴったり合ったと思われたが惜しくも赤旗。深澤、吉田の1本目はそれぞれ6m88(+0.7)、6m75(-0.1)であった。2本目は

深澤が 6m76(+3.0)、吉田、西村はファールであった。この時点で入賞なしの危機に追い込まれた東大であったが、3本目に西村が 7m18(+3.5)で3位、吉田が 6m93(+2.5)で8位に上がり、4本目以降の試技に進んだ。深澤の3本目はファールであった。その後西村は5本目に 7m51(+1.6)、6本目に 7m56(+0.8)を跳んで2位、吉田は6本目に 6m93(+1.1)を跳んで8位で終わった。西村の記録は全日本インカレのB標準を超える記録であり、かつ大会新記録であった。今回出場した3人は京大戦で得点源として東大のリベンジに貢献するだろう。

10:00 男子砲丸投 決勝

8/3(日)に開催された七大戦やり投げ対校の部には4年杉山、3年奥村、2年加藤が負傷中のため補欠の1年八木澤が出場した。

4年杉山は幹部として臨む最後の対校戦であることもあって相当に気合が入っていた。しかし、思うように結果はのびなかった。トップ8には残れず、記録は 42m51 に終わった。

3年奥村は前の砲丸投が少し長引いてしまったため練習投擲が十分でないまま試技に臨むことになってしまう。奥村も調子があまりよい状態ではなく、1、2投目はともに 50m に届かなかったが、3投目で 50m93 を出し、3投終了時のランキング8位で3人中唯一トップ8に残る。しかしその後も調子は上がらず、4、5投目はともに 49m 台であった。それでも6投目では 53m89 を出し、最終的な順位

を6位に上げて1点獲得という結果であった。

1年八木澤は補欠という形ではあったが初めての対校選手としての出場であった。記録は3投終わって 38m55 と、やはり実力不足であると感じざるをえない試合結果に終わった。

結果として男子やり投げ対校の部には3人が出場し、1得点という形になった。申請記録ランキングでは奥村が2位に入っていたが、各人当日の記録がベストには程遠く、予想された得点を下回ることになってしまった。トップ8には他大の3年生以下が8人中5人入っており来年得点するのは簡単ではないがこれからの成長に期待したい。

10:30 男子棒高跳 決勝

松下(3年)、寶田(2年)、戸部(1年)の出場。天候は晴れで風はほどよい強さであったが、向かい風であることが多かった。

寶田は 3m60 からの競技開始。棒高跳の公式戦は初試合だったが開始の高さが 3m60 だったため、やむを得ずこの高さからになってしまった。1本目、2本目はバーに届かずバーを落とすことさえできなかった。3本目は足を振り上げなんとかバーまで届いてバーを落とす。戸部も同じく 3m60 からの競技開始。この高さは PB であるが大学ではまだ跳べていない高さだ。1本目は腰が上がらず失敗。2本目は助走は良かったものの、ポールを下ろす動作が遅れて突っ込みの形が崩れてしまい失敗。3本目、突っ込みまではいい流れであっ

たが、やはり振り上げて腰が上がらずバーを落とす。松下は4m20からの競技開始。直近の2試合で4m00から開始してNMとなっているため開始の高さを変えたようだ。風が向かい風になることが多すぎたため、バーの高さを4m00に上げる時にマットの位置を変更した。位置を変えたため風は程良い追い風となった。1本目は踏切の時に足がやや入り、下の腕が曲がってしまいポールが立たない。高さはあったものの奥行きが出ず失敗。2本目は上手くポールの反発をもらい高さとしては余裕がある跳躍であったが奥行きがやや足りず失敗。3本目は2本目程の高さはなかったがバーを越えるには十分な高さが出ていた。しかし、前の2本同様奥行きが足りずバーを落とす。

結果は3人ともNMと非常に残念な結果となった。3人の京大戦での活躍に期待したい。

11:30 男子やり投 決勝

8/2(日)に開催された七大戦やり投げ対校の部には4年杉山、3年奥村、2年加藤が負傷中のため補欠の1年八木澤が出場した。

4年杉山は幹部として臨む最後の対校戦であることもあって相当に気合が入っていた。しかし、思うように結果はのびなかった。トップ8には残れず、記録は42m51に終わった。

3年奥村は前の砲丸投が少し長引いてしまったため練習投擲が十分でないまま試技に臨むことになってしまう。奥村も調子があまりよい状態ではなく、1、2投目はともに50mに

届かなかったが、3投目で50m93を出し、3投終了時のランキング8位で3人中唯一トップ8に残る。しかしその後も調子は上がらず4、5投目はともに49m台であった。それでも6投目では53m89を出し、最終的な順位を6位に上げて1点獲得という結果であった。

1年八木澤は補欠という形ではあったが初めての対校選手としての出場であった。記録は3投終わって38m55と、やはり実力不足であると感じざるをえない試合結果に終わった。

結果として男子やり投げ対校の部には3人が出場し、1得点という形になった。申請記録ランキングでは奥村が2位に入っていたが、各人当日の記録がベストには程遠く、予想された得点を下回るようになってしまった。トップ8には他大の3年生以下が8人中5人入っており来年得点するのは簡単ではないがこれからの成長に期待したい。

12:00 男子走高跳 決勝

福永(3年)、寶田(2年)、木下(1年)の出場。申請記録では福永がトップだが、寶田と木下は得点圏外であった。この二人がどこまで上位に食い込めるかが注目された。気温は非常に高く日差しもかなり強かったため、集中力を持続させることやうまくパスを活用することが要求された。

寶田は1m70からのスタートで、1回目でクリアする。続く1m75はベストタイの高さだったが、2回目でクリアした。ベスト更新も

期待された 1m80 では惜しい跳躍が続き、結局越えることはできなかった。木下は 1m75 からのスタート。この高さで 1m80 は 1 回目で余裕のクリアを見せ、1m85 も 1 回はミスしたものの 2 回目でクリアする。そして自己ベストを上回る 1m90 に挑戦するが、3 回ともわずかにバーを落とし競技終了となった。福永は 1m96 からスタートし、1 回目で難なくクリアするが、次の 1m99 でまさかの 3 回失敗となってしまった。

結果としては、實田が 15 位、木下が惜しくも得点を取れず 7 位、福永は記録は低調ながら優勝した。得点としては下馬評通りとなったが、総合得点を考慮するともう少し結果が望まれたと言える。夏季に練習を積んで一橋戦、さらにリベンジを果たすべく京大戦での活躍を期待したい。

12:00 女子走幅跳 決勝

女子走幅跳には白形(3年)が出場。持ち記録では 8 番目であった。男子走幅跳が行われた午前を引き続き、風が強く、非常に難しいコンディションの中で競技は行われた。1 本目は 4m88(-1.0)。1 本目から自己ベストに近い記録が出た。3 本目で 4m98(+2.4)と惜しくも追い風参考ながら 5m に近い記録を出した。白形は全体の 7 位で 4 本目以降の試技に臨んだ。4 本目以降記録を伸ばすことはできなかったが、数 cm のファールで 5m10 近いところまで跳んでおり、非常に惜しい結果となった。順位は 8 位であり、残念ながら得点する

ことはできなかった。白形は今後女子主将として、東大陸上部女子パートをけん引していくことになる。5m 以上をコンスタントに跳び、対校戦で得点をとる、女子パートの主力選手としての活躍が期待される。

13:00 男子円盤投 決勝

宮野(6年)と土井(2年)の出場。宮野はランキング 2 位と好位置だが、天候は晴れて気温も高く、既に砲丸投げに出場しているために疲労が懸念される。また土井はランキング 10 位だが、試合の展開次第では得点も可能な位置だろう。

まずは土井の 1 投目、今シーズン 3 投ともファールになってしまうことの多かった土井だが慎重に行きスタンディングで 30m 弱の記録を残した。これで安心感が持てたのか 2 投目、3 投目と思い切りをよくしていき 30m91 で自己ベストを更新した。3 投目を投げた時点で 8 位につけエイトに残ったかと思われたが、3 投目で 9 番手に抜かれてしまい惜しくも 9 位に終わった。対して宮野は最初の 3 投は置きにいったようにも疲れているようにも見えたが 32m47 で 4 位通過。あまり調子は良くなさそうだった。残りの 3 投はやや右側に抜けた投擲が多かったものの徐々に記録を伸ばし結果は 32m67 の 4 位。

6 年の宮野はこれが運動会陸上部最後の試合だったが、今後この大先輩の戦力がなくなると考えると、今回自己ベストを更新した土井もさらなる飛躍が望まれるだろう。

13:30 男子三段跳 決勝

午後1時30分、メインスタンド下の跳躍ピットで男子三段跳の火蓋が切られた。気温は36°Cにもものぼり、過酷な戦いが予想された。

東大からは木下、田中、吉田の三人がエントリー。三人とも14m台の自己ベストを擁しており、得点争いに大きな期待がかかる。

吉田の一跳目。スピードに乗った助走で14m57の好記録。この時点でトップと10cm差の2位につける。続いて田中。ゆったりとした助走から次第にスピードを上げていく。しかし踏切が合わずファール。続く木下もファールとなり、一跳目を終えた。

二跳目では木下が魅せる。13m88の大学ベストで全体の7位の記録をマークした。田中も二跳目にしっかりと助走を合わせ、13m28と記録を残した。しかし、勝負の三跳目では三人とも記録が思うように伸びない。この時点で吉田が2位、木下が9位、田中が12位となり、吉田がトップ8進出。残る二人が競技終了となった。

ここでスイッチを切り替えていきたい吉田は四跳目で降観客に手拍子を要求。トップを奪回したいところであったが、36°Cの炎天下、走幅跳の対校ですでに6本の跳躍を消費していた身体に疲労が見え始めたか、助走が合わず失敗試技となってしまう。最終試技にすべての可能性をぶつける。

手拍子を求めて気持ちを高ぶらせ、渾身の力での跳躍。審判が挙げた旗は白旗。しかし

14m57を超える跳躍とはなり得なかった。

最終結果は吉田が14m57の2位、木下が13m88の9位、田中が13m28の12位となった。自己ベストから考えるとこの結果は物足りないものではあるが、一年生が対校選手に名を連ね、競争意識が高まったこと、下馬評を上回る2位での入賞など、収穫は大いにある大会であった。京大戦までには各選手ともさらなる飛躍が期待される。

14:20 男子ハンマー投 決勝

七大戦最後の投擲種目、ハンマー投げには鍵本(3年)、郡(4年)が出場。鍵本はランキング3位の記録を持ち、さらに練習では40m越えの投擲を見せており、優勝も狙える実力者。郡はランキング7位の記録であり、下馬評を覆し1点でも多くの得点を取ることが期待される。試合が始まり、鍵本の1投目はハンマーを引っ張りすぎたため、惜しくもハンマーが左に出てしまったが、飛距離はかなり出ていたため好記録が期待できる。2投目に修正し鋭い2回転で38m20の自己ベストに迫る記録を残し、この時点で暫定トップに立つ。3投目はバランスを崩し、ターンの途中でハンマーが手から離れてしまいファール。3投目に京大の選手が43m64を記録し、逆転され2位でトップエイトに残る。4投目以降の鍵本は3投目で崩してしまった動作を修正することが出来ず4投目以降はすべてターンの途中でバランスを崩しファールとなってしまう。最終結果は38m20の2位であった。郡は1

投目に少し緩やかなターンではあるが確実に31m60の記録を残す。2投目にしっかりと加速した4回転で33m44を記録し、トップエイトを確実にする。3投目は右のネットに引っかかりファールであったが、3投目終了時点で6位となる。4投目はハンマーが左に出てファールであったが、5投目に3,4投目のファールから修正し、33m台の投擲を見せるが、記録を伸ばすことは出来なかった。6投目はヘッドをサークルに当ててしまい減速する惜しい投擲であった。記録と順位はトップエイト決定時のまま33m44の6位であった。結果として二人で6点を獲得した。

選手の言葉

短距離4年 稲葉啓人 (100m、200m、4×100mR)

100m、200mでは下馬評以上の得点を獲てくることが、4継では優勝を目標に七大戦に臨みました。100mに関しては、予選を確実に通過し、決勝はとにかく一点でも多く獲てこようと考えていました。向かい風が強く、タイムは満足できるものではありませんでしたが、2位と、下馬評以上の順位を獲ることができました。200mに関しては、予選をどれだけ余力を残して通過できるかが勝負でした。それが逆に良かったのか、ラスト10mほど流し目で走ったにも関わらず、21”44の東大歴代2位の記録を出すことができました。決勝

はスタート5歩目くらいで浮いてしまい、タイムを落として3位でした。今後は、100m、200mともに東大記録の更新、そして全国大会に挑戦できるように精進していきたいと思っています。4継に関しては、持ちタイムはトップでしたが、直前の200m予選にメンバーの3人が出場しており、間が35分しかないこともあって、厳しいレースとなりました。バトンが伸びた区間があり、41”21と、このメンバーのワースト記録で京大に敗れました。4継は全日本インカレにも出場し、そこで再び京都大学と走る可能性もありますので、リベンジできるよう、さらなるバトン技術の向上、そして個々の走力向上を目標に練習に励みたいと思います。OB・OGの方々、暑い中応援ありがとうございました。

短距離4年 小西慶治 (400m、4×400mR)

事前のランキングを1位で迎えた七大戦です。七大の初タイトルを獲るラストチャンス、そして総合優勝へ向けて落としてはいけない種目と気負って仙台入りしました。

結果はタイムこそ満足ではないですが、しっかり勝ち切ることができました。表彰台の真ん中に乗ることを今シーズンの目標にしていたのでとても嬉しいです。

ただ、総合優勝には至らず、また、私事ではございますが全カレに出場することも叶いませんでした。対校戦もまだ残していますし、陸上生活もこれで終わりではないので、また

練習していきたいと思います。

最後に、4年間七大戦を見てきて後輩にお伝えしたいことを2つ述べさせてもらいます。一つは、七大戦に対校選手として出てください。もう一つは、七大戦はタイムが狙えない試合ではないです。

標準がなく、部内争いで出られて、一番アツイ対校戦は七大戦です。レベルもインカレに比べたら低いです。

400とマイルで標準はおろか自己ベストすら出せなかった僕が言えたことではないですが、少なくとも、2年次の400のベストは七大戦のものだし、200も走りましたが、そこそこの水準でした。僕の対校戦デビューは七大戦のマイルでした。あのとき大澤さんらに起用してもらえたことは間違いなく大きいです。

テストもあって大変かもしれませんが、暑いなあと思うかもしれません。でも、夏は七大戦に照準合わせるべきです。七大戦で複数種目はきつい??何本も走っても戦い続けられる練習をすべきです。対校で競技したことがないなら、七大戦の対校を狙ってください。

以上。七大戦がとても好きな小西の言葉でした。

短距離4年 宮原弘季

(400m、4×400mR)

今回は400mHと4×400mRで優勝、4×400mRは大会新という結果でした。2年前の伝説の予選落ち以来ずっと執着していた七大

戦での優勝。しかし何故か僕の心は晴れませんでした。400mHの大会新を逃したから、総合優勝を逃したから、レセプに出ずに帰ったから、院試があるから、など理由は色々と考えられますが、1番の理由は最後(多分)の七大戦で納得のいくパフォーマンスを発揮できなかったことだと思います。

四大戦が終わってから、走りに迷いが生じたり、少し怪我したり、と満足のいく練習を積みなかったことが原因です。身体は正直です。しかし今回の七大戦で多くの改善点を見つかることができたので、1週間経った今では「まだまだ速くなれそう!」と心踊っています。次の大会は1ヶ月後に行われる全日本インカレです。必ずベスト出します。そして密かに日本選手権A標準狙ってます。これからも応援宜しくお願いします。

短距離2年 坪浦諒子

(400m、4×100mR)

大学に入って、初めて試合が楽しいと思いました。辛くなるラスト150mで無意識にギアチェンジしていて、勝ちたいという思いが背中を押してくれた、そんなレースでした。ラストで一気に減速してしまうという最近の課題が吹っ切れたように感じます。

しかし、上手く練習が積めていたわけではありません。7月半ばまで一ヶ月程膝の怪我に苦しみ、復帰できたのは試合2週間前です。その後も気が急いでしまい、左脚が筋膜炎に。出場を決めたのは試合前日でした。自己管理

出来ていないことが情けなく感じます。その分、ちゃんと走練を積みばまだまだ記録が伸びると確信しています。怪我をすることなく夏の練習をきちんと積み、今シーズン中に56秒台までは走れるようになります。今回、初めて対校戦の楽しさが分かりました。今後は個人としての楽しさのみならず、女子パートとしての勝利を掴めるよう頑張ります。期待しててください。

長距離4年 福島洋佑 (3000mSC)

男子3000mSCに出場させていただきました4年の福島です。試合前の下馬評では6番手でしたが、朝イチの種目で東大を優勝へ勢い付けるため、表彰台を目標に掲げていました。結果はいま一步及ばずに5位。6年前のPBを約10秒短縮し、ランキングも覆せたので、試合直後はわずかに手応えも感じていましたが、総合優勝を果たす事が出来なかった今、ただただ悔しく、チームの皆やOB,OGの皆様に対して申し訳無さを感じるばかりです。この1年間で東大陸上部は強くなりました。だからこそ、自分が最低限の仕事を果たせば、後はエース達が勝ってくれるだろう、という油断と依存が何処かにあったように思います。副将という立場でありながら、むしろ部員の皆には様々な形で支えて貰い、この1年間は本当に素晴らしい思いをさせて貰いました。その感謝の思いを、京大戦の優勝、予選会での東大記録更新という形で、今度こそ結果で

お返し出来るように残り2ヶ月、後悔の無い様に全力を尽くします。今度がラストチャンス。感謝の言葉はその時まで取っておかせてください。

長距離1年 近藤秀一 (1500m、5000m)

私は七大戦の1500mと5000mに出場させていただきました。1週間前のポイント練習では非常に調子が良く、2種目での優勝を目標にしていました。しかし、大会の週は腸脛靭帯を少し痛めてしまい、あまりいい練習ができず不安を残して大会に臨むことになってしまいました。結果は1500m、5000mともに2位で、得点を取るという点では最低限の仕事はできたと思います。しかし、万全の状態に大会に臨むことのできなかつた点は悔やまれ、今後調整能力を高めていく必要があると感じました。次の目標は予選会で個人としては20kmを60分台で走ること、チームとしては東大記録を更新することです。今はとてもいい練習ができていて本番へ向けて手応えを感じているので、この調子で練習を継続していきたいです。

跳躍3年 西村智宏 (200m、4×100mR、走幅跳)

私にとって七大戦は初めてで楽しみな試合であり、かつ全日本インカレの標準を切ることのできる最後のチャンスという、非常に重要な試合でした。私は1ヶ月前の試合で標準

を狙いにいって失敗してしまい、追い込まれてしまったため非常に焦りを感じていました。それと同時に「次の1ヶ月は自分にできることは全てやる」との思いで生活する、と覚悟しました。私は前回の反省を胸に7月の間、ひたすら陸上のことを考えて私生活の取り組みから見直し、練習も非常に厳しいものを自分に課しました。そのような状態で試合に臨むことになったのですが、そのおかげか今までなかったような自信を持って、試合に入ることができました。

当日は最初の2本はファール、5本目は標準まであと4cm届かずという非常に苦しいものとなりましたが、なんとか6本目で標準を越えることができ、喜びとともに安堵の気持ちで一杯になりました。

200mは幅跳びの勢いそのままこちらも全カレ標準を狙いましたが、結局予選で体力を使い切ってしまう、4継と200m決勝では非常に悔いの残る結果となってしまいました。

今後は日本選手権のA標準7m70を目標に、東大記録の更新を見据えて更なる努力を重ねます。応援ありがとうございました。

3. 一橋戦 講評

次期主将・吉田侑弥

来期より主将を務めさせていただきます吉田です。

先月の七大戦では、戦って勝つことの難しさ、チームとしての未熟さを痛感させられました。より強いチームを築き京大戦や来年の関東インカレに臨む、その足がかりという意もこめて今回の一橋戦を戦い抜きました。

夏季合宿明け、さらに悪天候も重なり記録水準は芳しくありませんでしたが、中長距離を中心にしっかり得点でき、どんな状況下でも結果を残すという点においてはよい成果が得られたと感じています。

あと1か月と迫ってきた京大戦では、何としてでも京大に雪辱を果たさなければなりません。日頃からご支援を頂いておりますOB・OGの皆様のご期待に添えられる結果を残せるよう、部員一同精進して参ります。今後ともよろしくお願いいたします。

次期女子主将・白形優依

今回トラックの部では優勝したもののフィールドの部で大きく引き離されてしまい、総合優勝を逃しました。今回の試合で敗北を喫してしまった原因は、三種目(400m、走幅跳、砲丸投)において1人のみの出場となってしまい、得点を逃してしまった所にあります。今後の対校戦ではフィールドパートでの人員不足を補うために、トラックを専門とする選手が種目を兼ねる必要性を改めて痛感しました。

しかしながら、今回の試合では合宿直後であったのにも関わらず、1500mの高石(1年)、走幅跳の白形(3年)を中心にPBやUBが相次

ぎ、各部員が着実に力をつけていることが結果に表れているように感じています。また、砲丸投と400mを除いた種目全てで優勝できたことは、女子パートとして大きな自信に繋がりました。

昨年の京大戦は引き分けましたが、今年は総合優勝することを目標としてこの1年間練習に励んでまいりました。昨年に比べ中長距離部員も増え、トラック種目を中心に京大を引き離して勝利することができると考えています。残り1か月チーム一丸となって鍛錬していきますので、今後とも応援宜しくお願いいたします。

4. 一橋戦 試合経過

◎トラック種目

10:00 男子 100m 決勝

2レーンに松本(3年)、4レーンに稲葉(4年)、6レーンに泉(4年)の出場。代替わり後の初の対校戦、最初の対校種目であり、しっかりと勝利してチーム全体にいい流れを作っていたところである。

雨が降りしきり、あまりコンディションが良くない中でのスタートとなった。序盤はスタートが得意な泉が飛び出し5レーンの一橋の選手と並んでいたが、40m付近から徐々に離されていく展開となった。稲葉は序盤でやや出遅れ、前に行く泉と一橋の選手を追う展開となったが、得意の後半で巻き返す展開。松本は序盤から中盤にかけては3レーンの一

橋の選手に食らいついていたが、後半は失速し差をつけられてしまった。結果は稲葉が11”12の2位、泉が11”13の4位、松本が11”35の6位となった。この時の風は無風であった。

今回は実力のある4年生が2人出場しタイムには不満が残るも、得点を獲得することができた。しかし、代替わり後には松本や、今回は残念ながら欠場となった西村(3年)といった層がしっかりと得点を稼ぐことが対校戦の勝利に必要となってくる。3年生以下のさらなるレベルアップの必要性を痛感させられたレースとなったと言える。

10:40 女子 100m 決勝

3レーンに白形(3年)、6レーンに笠村(3年)の出場。参考記録では白形も笠村も一橋と津田塾の選手を圧倒しており、直前まで体調を崩していた笠村の復調具合にもよるが、高得点の期待がかかる。

雨の中でのスタートとなった。スタートはほぼ横一線であったが、30m付近から白形が抜け出し、そのまま伸びのある走りで先頭を譲らずゴールラインを駆け抜けた。一方、笠村は中盤までは隣を走る津田塾の選手と並んでいたが、中盤から後半にかけての走りは精彩を欠き、差をつけられてしまった。結果は白形が13”54で1位、笠村が14”03で3位であった。この時の風は無風であった。

白形の好タイムでの優勝はチーム全体に勢いをつけたと言える。白形は専門の走り幅跳

び、さらにはリレーでの活躍も期待される。一方、笠村は持ち味のダイナミックな走りにキレがなく不本意なレースになってしまったが、リレーでの挽回、続く京大戦での復調を期待したい。

10:55 男子 1500m 決勝

西川(4年)、軽部(3年)、加藤(3年)の出場。雨が降り、少し肌寒い中でのレースとなった。部全体として対校戦で全パートが勝ち越すことを目標としている中、1500mでも確実に勝ち越すことが求められていた。

ランキング1位の一橋大学の選手が400mを60秒を切るハイペースで入ったため、東大の3選手は事前の打ち合わせ通り、1周64秒のペースで軽部が引っ張る作戦を取り、一橋の他の2選手と集団を形成した。先頭の一橋の選手は2周目もペースを落とさずに走り、2番手の軽部と一時50m以上の差をつけたが、1000m地点で突然失速したため、東大の選手たちはホームストレートで先頭を抜いた。バックストレートでは西川、加藤が前に出たが、軽部が残り150mくらいでスパートをかけ前に出て4'02"69の1位でフィニッシュ、また西川が4'03"26の2位、加藤が4'03"82の3位でフィニッシュした。

今回は相手側の思わぬアクシデントに助けられる形でスコク勝ちを収められたが、京大戦では相手は更にハイレベルであり、厳しい戦いが予想される。ハイペースな展開にも十分対応できる力をつけることが求められる

だろう。

11:20 女子 1500m 決勝

高石(1年)、黒岩(1年)の出場。2人とも成長が著しく、大幅なベスト更新および上位入賞が期待される。

スタートしてすぐに高石は先頭へ。黒岩は最後尾につける。ペースが遅いと感じたのか黒岩が200m地点過ぎで前の2選手をかわして3番手へ。高石は依然先頭を引っ張る。600m過ぎから黒岩が先頭の2人からやや遅れ始めるも、800m過ぎに先頭の高石から離れ始めた一橋大の選手に1000m過ぎで追いつき、2人で2位争いをする展開となった。先頭の高石は独走態勢に入る。ラスト1周、終始先頭を譲らず安定した走りを見せた高石が5'04"88の1位でフィニッシュ。また、黒岩は一橋大の選手とのラスト100mでのスパート合戦を制し5'13"28の2位でフィニッシュ。見事に東大のスコク勝ちとなった。

2人とも関東新人の標準記録を突破する素晴らしい記録で自己ベストを更新し、応援席を沸かせた。東大の女子選手が少ない中での新人2人の活躍は、今後の対校戦勝利への期待を大きくさせる。

11:40 男子 400m 決勝

2レーンに藤田(3年)、4レーンに森本(3年)、6レーンに河野(2年)の出場。森本、河野は七大戦をはじめ対校戦出場の経験が豊富で、今大会でも活躍が期待される。藤田は

個人種目では対校戦初出場であり今後につながる走りをしたい。合宿明けで疲労が抜けきらない中でのレースとなったが、この400mでは大量得点を狙いたいところである。

当日の気温は20度、先刻まで降っていた雨が止んだ頃にスタートの号砲が鳴った。藤田、河野は序盤から積極的に前に出る。一方森本は慎重な滑り出しで両レーンの一橋の選手の出方を窺っている。200mに差しかかるころになって森本はギアチェンジで一気に加速し、両レーンの選手を引き離していく。藤田、河野も後半懸命な走りを見せる。結局森本、河野はスピードを落とすことなく1位、2位でフィニッシュ。藤田は最後まで前方の一橋の選手に食らいつくも5位であった。

気温やグランドコンディションが悪い中でも3者ともある程度レースをまとめることができたという点で収穫のあるレースであった。特に藤田は今後対校選手になる機会が増えると思われ、このレースの経験を次につなげたい。全体としては13点を稼ぎ、チームの優勝に大きく貢献した。3者の京大戦以降の活躍も期待したい。

12:00 女子 400m 決勝

3レーンに河原(3年)が出場。本来中距離を専門とする河原であるが、今回は短距離種目でのエントリーとなった。しかし800mでの対校選手としての経験は十分であり、今大会においても活躍が期待される。

当日の気温は20度と低い上、小雨もちらつ

く中でスタートとなった。河原はスタートから果敢な走りを見せ、4レーンの一橋の選手を追い抜いていく。バックストレートから後半にかけてもスピードは落ちることなく有利なレース展開を見せている。ただ、外レーンの津田塾の選手は手強く、徐々にその差は開いていく。レースも終盤に差しかかるころになって河原は中距離選手らしい持ち前の粘り強い走りを見せて後方の選手の追従を許さず、そのまま2位でフィニッシュした。

先月の七大戦をもって代替わりし、河原は女子パートの主力メンバーとして今後ますますの活躍が予想される。今回は短距離種目での出場だったが、専門の中距離を生かした走りを見せた。得点の面でも3点を計上し、チーム全体に弾みをつけた。京大戦、更に来年以降の彼女の活躍に注目したい。

12:20 男子 110mH 決勝

男子対校110mHは、1レーンに竇田(2年)、3レーンに杉森(6年)、5レーンに加来(3年)の出場。午前中降っていた雨も止み、最高とまでは言えないがまずまずのコンディションであった。しかし、8/24(月)まで合宿であったため、ハードルの練習が十分には積めておらず、力を遺憾なく発揮できるかどうか懸念された。

レースは2つ目のハードルを越えた辺りから早くも差がつき始め、東大の3人がリード。そして、レース中盤から杉森が竇田・加来を突き放し、トップに躍り出た。その後も差を

広げ、1位(15" 69)でゴール。続いて寶田、加来が4位の選手に大きく差をつけて、2位、3位でゴールし、危なげないスコンク勝ちであった。タイムは寶田が16" 07、加来が16" 23であった。風は-0.2であった。

合宿明けにも関わらず見事なスコンク勝ちを収めた事もさることながら、得点した3人の内2人が3年生以下、つまりこれからの東大陸上部を担う選手であることは評価されるべきであろう。特に寶田は走高跳にも出場しており、調整が難しかったであろうなかでの成績であり、これからの活躍が期待される。

13:25 男子4×100mR 決勝

4レーンに東大、5レーンに一橋の出場。東大は1走に松下(3年)、2走に福田(2年)、3走に河野(2年)、4走に松本(3年)が走る。7大戦を終え、新しい東大陸上部として初めて臨む対校戦のリレーは部に勢いをつける意味で、また今回はリレーのメンバーを3年生以下で組んでいるのでどれくらい力があるのかはかる意味で重要である。スタートの合図と共に松下が走り出す。力んでいないいいスタートだ。1レーン外側の一橋の選手を追う。しかしその一橋の選手は加速が早かった。松下は30m付近で少し引き離された。しかし後半は減速が少なく、差を広げられることなくバトンを渡す。2走の福田はバトンを受ける際やや失速したが、その後はいつもの走りを見せ、確実につなぐ。3走の河野はバトンを受ける際後ろを向いてしまい、失速。加えて400m

を走った疲労が残っていたのか、前半は本来の実力を出し切れなかった。4走松本にバトンが渡った時点で先を行く一橋との差は約10m。松本は懸命に後を追うが、差は縮まらずそのままゴール。タイムは42.82で二着だった。今回は残念なりレーとなったが、バトンを改善し、それぞれが本来持つ実力で走ればタイムはかなり縮まれるであろう。今後期待したい。

14:55 男子5000m 決勝

小松(5年)、渥美(4年)、近藤(1年)の出場。気温は20度で雨も止み、走りやすいコンディションでのレースとなった。

スタート直後は近藤が先頭に立ち、渥美がそのすぐ後ろにつけ、小松が4,5番手で走る展開となった。近藤がハイペースでレースを引っ張り、400mすぎには近藤、渥美、そして一橋の菊地が他の三人を離れた。レースは進み、1000mを2'52で通過したところで一橋の菊地が離れた。小松は1000mを2'55で通過した。1600m付近で渥美が先頭から遅れ、近藤の独走状態となった。2000mは近藤が5'45、渥美が5'50、小松が5'56で通過した。その200m後に菊地が渥美に追いつき、2400mで小松なども追いついて五人の集団を渥美と小松が引っ張る形となった。近藤は3000mを8'40で通過し、集団は9'07で通過した。近藤は3000mから4000mのラップが3'01と途中少し落ちたものの、後ろに300m近い差をつけて14'35"78というタイムで一

位でゴール。一方集団の方は、渥美が残り400mのところまで仕掛け、小松と菊地がついていった。残り200mで菊地が遅れ、最後の100mの勝負は渥美が制した。

渥美が15'16"89で2位、小松が15'17"57で3位でゴールした。今回のレースは前評判通りしっかりと点数を稼ぐことができた点ではよかったが、京大などのより強い敵を相手にした場合どうなるのか少し不安が残った。チーム全体が意識を高くもち、近藤にも食らいついていけるような選手がもっとたくさん出てこないとその先の試合では厳しいだろう。

15:20 女子4×100mR 決勝

5レーンに津田塾大学、6レーンに東京大学、7レーンに一橋大学の出場。一走に笠村(3年)、2走に石丸(1年)、3走に白形(3年)、4走に坪浦(2年)が準備する。怪我の関係で走順は当日変更された。ピストルの音と共に笠村が飛び出した。前半には一橋の選手を捉え、バトンを渡すころには追い抜かした。一方の津田塾大学の選手とは互角の戦いをして石丸につなぐ。しかしバトンを失敗。その間に津田塾大学に追い抜かれる。それでも石丸は持てる力をしっかりと出し、3走につなぐ。ここでバトンもやや失敗したものの白形がすばらしい走りを見せる。バトンを受け取るとスピードに乗り、内側のレーンの津田塾大学の選手を捉えると一気に抜き去った。四走の坪浦とのバトンは成功し、坪浦は他の選手との差をどんどん広げ、その実力を見せつけた。タ

イムは53.43。当初の見込みの通り一位をとった。しかしタイムは雨でコンディションが悪かったとはいえ、よくはない。3回のバトンのうち2回失敗してしまっている。男子と同様にバトンを改善すれば大幅にタイムを変えられるはずだ。京大戦に期待したい。

15:30 男子4×400mR 決勝

5レーンに藤田健(3年)・河野(2年)・軽部(3年)・森本(3年)の走順で出場。国公立戦同様、3年生以下のメンバーで臨むこととなったが、今大会の400mで1位・2位の森本・河野を軸としたオーダーで、好結果が期待された。

1走藤田は前半落ち着いた走りをみせるが、スタートから内側の一橋大の選手が飛ばし、バックストレートで追い抜かれてしまう。後半は追い上げるが、一橋の選手も粘ったため差はなかなか縮まらず、2走河野にバトンを繋ぐ。2走も一橋の選手が積極的に飛ばし、バックストレートでは2秒程の差をつけられてしまう。ここから河野が粘って差を詰めるが、ラストでやや疲れ、そのまま3走軽部に繋いだ。軽部は第1コーナーで走り終わった一橋の選手と接触するアクシデントもあり、序盤で前との差が広がるが、後半で追い上げて4走森本に繋ぐ。森本は前半から前との差を徐々に縮めていき、ホームストレートでは目前にまで迫るが、ラストはわずかに届かずフィニッシュ。しかし、軽部との接触により一橋の選手が走路妨害とみなされたことで一橋は失格となり、東大が1位となった。また、

タイムは3' 22" 80であった。

今回は主力選手の怪我もあり、今大会の1500mを制した中距離選手の軽部を起用してのレースとなった。今後の、特に来年以降の対校戦に向けては、短距離選手の成長が求められるとも言えるだろう。

◎フィールド種目

10:00 円盤投 決勝

奥村(3年)、土井(2年)の出場。奥村は肘の痛みのため、同時エントリーしていたやり投げを棄権し、勝負をこの円盤投に賭けた。土井もまた、関東インカレB標準切りを狙ってこの大会に臨んでいた。

雨が本格的に降り始めた頃、試技が開始された。

土井は一投目をスタンディングで残した後、ターン投法に切り替える。ダメだ、ターンの入りが早すぎる！練習投擲の時点から、ターンをつければ右にそれる投擲を連発し、その度円盤はフェンスに激突した。しかし土井は諦めない。3投目、滑りながらもうまくタメを残して強引に振り切る。「ンゴーーーーッ！！」土井ンゴの異名を彷彿とさせる雄叫び。31m90をマーク。悪天候の中、底力でのPBで優勝だ。成長したな……。B標準突破は残念だったが時間の問題か。

奥村は円盤を抱えながらも器用に傘をさしてサークルに入り、ゆっくりと感触を確かめながら回転する。

一投目は立ち投げ。円盤は不規則に揺れ、

月のような軌跡を描く。シュタイナー＝ブロッケン現象だ。

ターン投と立ち投げを駆使するも、ファールが続く。苦しい状況だった。立ち投げにおいては円盤の軌道を最初から大きく描かなければならないのに対し、ターン投法においては1stターンに入って一瞬待ってから力を加え始めなければならない。今回の試合で奥村はそう学んだ。結果は23m34の3位であった。

11:25 男子砲丸投 決勝

8月30日昼食を摂るには少し早い頃合い戦士達の愛と哀しみを代弁するような空模様の中、闘いの火蓋は切られた…

宮野・杉山の後継者たる新大将奥村、着々と地力をあげ新勢力となりつつある土井、先の大戦で重傷を負い本国で身体を癒している最中の加藤から授かりし力(スロシュー)と共に戦場に新風を吹き込まんとするrookie山之内…愛ゆえに儂く散った3名の戦士達の慟哭が此処に

奥村「どうにも動きが100%まで行かない、おまけに雨でコンディションも最悪…だが、この程度では敗けることなどあり得ない！うおりゃっ 11m54 よしこれならまずまずだろう 1位も取れたしこのまま京大戦だ！」

土井「円盤で自己ベストを出せたんだ、このまま勢いに乗って一橋の2番手に勝つんだ！」

ンゴッ!!9m28 よし3位だ任務完了、帰還するンゴ！」

山之内「ヤッベェ、めっちゃ緊張する。くそ身体が動かない！まずい4投目まで全然記録が出ていない！なんとかしないと、おんどりゃーっ!!8m00!?!やった自己ベストだ！でも6位か…もっと頑張っって早く9m50を超えてやるんだ！」

第57次一橋戦男子砲丸の部は6点取って此方の勝利となった。これからも未だ見ぬ強敵達が現れることだろう。中には圧倒的に格上もいるかもしれない。しかし我々は信じている！東大陸上部の漢達がそんなことで挫けはしないと！闘え、漢達よ！自らの愛と正義を貫いてッッ！

11:25 女子砲丸投 決勝

8月30日、日曜日。一橋大学内のキャンパス内の競技場で第13回東京三大学女子対校陸上競技大会が行われた。天候は朝からあいにくの雨であったが、新幹部に代替わりしてからの初めての対校戦ということで、応援も選手も幸先の良いスタートを切ろうと皆気合十分であった。女子砲丸投には4年宮崎の出場。宮崎は競歩専門の選手であり今回の一橋戦も久しぶりの砲丸投の出場となったが、今までの記録を見ると2位につけており、確実な得点が期待された。まず、練習投擲では立ち投げ、助走をつけての投げと様子を見る。1

投目は練習投擲と同じステップ投げで6m09をマーク。しかし、この投げは練習の時のような左手の使い方ができていないとOBの岡野先輩からダメ出しを受ける。2投目は皆の応援を受け、6m22と記録を伸ばす。しかし3投目以降は中々記録が伸びない。このまま終わってしまうのかと思われたが6投目の投げで6m31をマークし最後の最後に記録を伸ばす。この投げについて岡野先輩は「左手はまだうまく使えてなかったけど体幹がしっかりして軸がちゃんと出来ていたね。」とこれからの課題を提示しつつも称賛していた。結果は2位となり、確実に得点するという目標を達成することができた。次の京大戦に向けて左手の動きの改善に取り組んでもらいたい。

12:20 男子走幅跳 決勝

男子走り幅跳びは小雨の降りしきる中、30分ほど遅れて12:50分頃に開始された。東大からは深澤(3年)、草野(2年)、木下(1年)の3人が出場。1回目、まずは草野の跳躍。白旗が上がり、6m22の記録を残す。しかし、気温20度で小雨というコンディションがこの後の3人を苦しめる。深澤は1,2跳目をフェールで臨んだ3跳目に6m70をマークし、辛くも1位を奪ったがその後は記録は伸びない。一方木下も2跳目に6m17、4跳目に6m36を出し、一時は2位をもぎ取っていたが、それ以外の4本はフェールと精彩を欠いていた模様。3位で競技終了となった。草野も1跳目に記録を残したが、その後は本来の跳躍は鳴りを

潜め、6m22の6位で競技終了となった。

今回の男子走り幅跳びは気温も低く、雨というコンディションの中での競技、さらに夏の合宿での疲労もあってか、各選手とも最高の状態で臨むことが難しかったように思われた。しかしその状態の中であって、深澤の優勝とチームとして一橋大学に勝利を収めることができたのは大きな収穫であった。新体制となり、フレッシュなメンバーも対校戦に名乗りを上げるようになった東大陸上部跳躍パートの今後の活躍に期待したい。

12:20 女子走幅跳 決勝

女子走幅跳には、白形(3年)が出場。試合当日は雨が降っており、気温も低かったため、体調を整えるのに苦労するグラウンドコンディションであった。競技では、エントリーしていた5人のうち3人が出場。参考記録は白形以外の二人は記録なしであり、跳躍のレベルも白形が断然高かった。したがって今回は対校種目ではあるが、順位よりも記録を狙っていく展開となった。1本目はファールであったが、二本目に自身初の5m台となる5m00を跳んだ。ここで勢いのついた白形はその後5m09(0.0)を跳び、1位で競技を終了した。それまでのベストは公認で4m91であり、18cmのベスト更新となった。女子部員の少ない東大陸上部にとって女子が京大戦で勝つには一つ一つの種目での勝利が欠かせないが、今回コンディションがすぐれない中で自己ベストを更新したことは京大戦での勝利へ弾みをつ

けただろう。今後は関東インカレの標準5m65超えに期待したい。

13:25 男子やり投 決勝

一橋戦最後の投擲種目であるやり投が13:25に開始された。やり投げには八木澤(1年)、松下(3年)が出場。奥村(3年)は肘の怪我により棄権した。一橋大には60m越えの記録を持つ選手と48m台の記録を持つ選手が出場しており苦しい戦いになりそうである。松下は棒高跳専門の選手であるがやり投にエントリーした。第一投擲者は松下だが、松下は4×100mRにも出場しており1投目に間に合わなかった。八木澤の1投目はやりが高く上がってしまい34m台と伸び悩む。2投目、3投目ともにやりにうまく力を伝えられず34m03で前半3投を終える。2投目の試技が終わったそのとき、4×100mRを終えた松下がやり投ピットに現れた。急いで練習投擲を一回済ませた後に投げた松下の1投目は高さが全く出ず、本人も前から出てしまう。2投目ではやや高さのある投擲を見せ33m37の記録を残す。この時点で前半3投が終わったが、この時点で一橋大に1~3位を取られており非常に苦しい展開だ。八木澤は後半もやりが上に上がってしまい距離が出ず記録は34m03の5位で競技を終了した。松下は感覚をつかんできたのか後半3投で記録を伸ばし38m38の3位で競技を終了した。結果、東大2点、一橋大8点と大きく負け越すこととなった。やはり部の1番手2番手である奥村、加藤が

怪我の影響で満足に練習できていない影響は大きいのか。2人はとにかく怪我を治し京大戦や来年の関東インカレでは大投擲を見せてほしい。八木澤も肘の違和感を訴えており今一度フォームの改善が必要となりそうだ。

14:30 男子走高跳 決勝

福永(3年)、寶田(2年)、木下(1年)の出場。福永は昨年のこの大会で大会記録をマークしており、雨が降り気温も低かったが、今年度さらなる更新が期待された。また、一橋の対校選手が2人棄権したため、この種目での高得点も望まれた。

寶田は1m65から挑戦し、1回目で余裕のクリアを見せる。続く1m70は3回目で何とか成功するが、4種目こなしてかなり疲労が蓄積しており1m75は3回とも失敗に終わった。木下は1m70からスタート。この高さは1回目でクリアし、1m75も2回目で見事な跳躍を見せ成功。1m80も3回目で決めたが、この時点で2位以上が確定したためこれ以降の高さをパスし競技終了となった。福永は1m85から登場し1回目で難なく越えると、バーを2m00に上げる。この高さは最高点が合わず苦戦するも、3回目でクリアし、大会記録となる2m06に挑戦する。しかし上手く身体が浮かず記録更新はならなかった。

結果は福永が1位、木下が2位、寶田が4位で、全10点中8点を獲得した。走高跳で大きくリードを広げ、総合での勝利、跳躍パートでの勝利に貢献した形となった。

5. 試合結果

第66回 全国七大学対校陸上競技大会

男子100m 予選

1組

2 藤田 旭洋 10.89

2組

1 泉 悠太 11.06

3組

2 稲葉 啓人 10.88

男子100m 決勝

2 稲葉 啓人 10.95

5 藤田 旭洋 11.09

7 泉 悠太 11.15

男子200m 予選

1組

2 藤田 旭洋 22.01

2組

1 稲葉 啓人 21.44

3組

2 西村 智宏 21.50

男子200m 決勝

3 稲葉 啓人 21.62

6 藤田 旭洋 22.07

8 西村 智宏 23.27

男子 400m 予選

1 組

1 小西 慶治 48.59

2 組

6 河野 太郎 52.35

3 組

1 森本 淳基 49.70

男子 400m 決勝

1 小西 慶治 48.17

6 森本 淳基 50.21

男子 800m 予選

3 加藤 騎貴 1:58.26

6 早川 航平 2:00.19

3 軽部 智 1:56.50

男子 800m 決勝

5 軽部 智 1:56.36

男子 1500m

2 近藤 秀一 3:56.05

9 西川 拓 4:02.51

11 小南 直翔 4:07.25

男子 5000m

2 近藤 秀一 14:51.86

10 渥美祐次郎 15:30.08

15 松本 啓岐 15:55.86

男子 110mH 予選

5 寶田 雅治 15.85

6 加来宗一郎 16.26

2 杉森 康平 15.70

男子 110mH 決勝

7 杉森 康平 15.81

男子 400mH 予選

1 宮原 弘季 54.27

5 加来宗一郎 55.47

2 兄井啓太郎 55.04

男子 400mH 決勝

1 宮原 弘季 52.20

5 兄井啓太郎 54.42

男子 3000mSC

5 福島 洋佑 9:36.08

12 伊藤 嘉宏 10:25.93

男子 5000mW

4 宇野 文貴 23:37.29

男子 4×100mR

2 泉一西村一稲葉一藤田 41.21

男子 4×400mR

1 兄井一小西一森本一宮原 3:16.20

男子走高跳

- 1 福永 大輔 1m96
 7 木下 秀明 1m85
 15 寶田 雅治 1m75

男子棒高跳

- 戸部潤一郎 NM
 松下 周平 NM
 寶田 雅治 NM

男子三段跳

- 2 吉田 侑弥 14m57
 10 木下 秀明 13m88
 19 田中 恭平 12m85

男子砲丸投

- 2 宮野 涼至 12m33
 5 奥村 俊樹 11m54
 16 山之内良太 7m92

男子円盤投

- 5 宮野 涼至 32m67
 9 土井 雅人 30m91

男子ハンマー投

- 2 鍵本 直人 38m20
 6 郡 健太 33m44

男子やり投

- 6 奥村 俊樹 53m89
 11 杉山 耕平 42m51

- 15 八木澤光大 38m55

総合得点

- 1位: 京都大学 97点
2位: 東京大学 84点
 3位: 大阪大学 82点
 4位: 東北大学 55.5点
 5位: 名古屋大学 41点
 6位: 北海道大学 29点
 7位: 九州大学 16.5点

第26回 全国七大学対校女子陸上競技大会**女子100m 予選**

- 1組
 5 笠村 洋子 13.50
 2組
 7 高橋 奈々 13.96

女子400m 予選

- 1組
 6 堀越 美菜 1:10.14
 2組
 1 坪浦 諒子 59.66

女子400m 決勝

- 1 坪浦 諒子 58.76

女子800m

- 12 荒木 玲 2:43.80

女子 3000m

- 11 高石 涼香 11:23.03
12 黒岩 道子 11:47.85

女子 4×100mR

- 6 笠村一石丸一白形一高橋 52.63

女子走幅跳

- 8 白形 優依 4m81

総合得点

- 1位: 大阪大学 19点
2位: 名古屋大学 13点
3位: 北海道大学 13点
4位: 東北大学 11.5点
5位: 九州大学 10点
6位: 京都大学 9.5点
7位: 東京大学 4点

第57回 東京大学・一橋大学対校陸上競技大会**100m**

- 2 稲葉 啓人 11"12
4 泉 悠太 11"13
6 松本 大樹 11"35

400m

- 1 森本 淳基 50"19
2 河野 太郎 50"68
5 藤田 健一 51"61

1500m

- 1 軽部 智 4'02"69
2 西川 拓 4'03"26
3 加藤 騎貴 4'03"82

5000m

- 1 近藤 秀一 14'35"78
2 渥美 祐二郎 15'16"89
3 小松 息吹 15'17"57

110mH

- 1 杉森 康平 15"69
2 寶田 雅治 16"07
3 加来 宗一郎 16"23

走幅跳

- 1 深澤 竜太 6m71
3 木下 秀明 6m36
6 草野恒平 6m22

走高跳

- 1 福永 大輔 2m00
2 木下 秀明 1m80
4 寶田 雅治 1m70

砲丸投

- 1 奥村 俊樹 11m54
3 土井 雅人 9m28
6 山之内 良太 8m00

円盤投

- 1 土井 雅人 31m94
3 奥村 俊樹 23m34

やり投

- 3 松下 周平 38m38
5 八木澤 光大 34m03
6 奥村 俊樹 DNS

4×100mR

2 松下一福田一河野一松本 42"82

4×400mR

1 藤田一河野一軽部一森本 3'22"80

総合得点

1位：東京大学 72点

2位：一橋大学 38点

第13回 東京三大学女子対校陸上競技大会**100m**

1 白形 優依 13"54

3 笠村 洋子 14"03

400m

2 河原 未来 1'07"58

5 坪浦 諒子 DNS

1500m

1 高石 涼香 5'04"88

2 黒岩 道子 5'13"28

走幅跳

1 白形 優依 5m09

砲丸投

2 宮崎 愛里香 6m31

4×100mR

1 笠村一石丸一白形一坪浦 53"42

総合得点

1位：津田塾大学 45点

2位：東京大学 43点

3位：一橋大学 12点

6. 自己記録更新者一覧**7/9 第1回順天堂大学中長距離ナイター競技会**

1500m 小南直翔(4) 4'00"37

8/1,2 第66回七大戦

100m 寶田雅治(2) 11"57 (-1.6)

110mH 寶田雅治(2) 15.85 (-1.2)

200m 稲葉啓人(4) 21"44 (-0.9)

200m 西村智宏(3) 21"50 (-0.4)

400m 藤田健一(3) 51"28

400m 下村麟平(2) 53"19

400m 坪浦諒子(2) 58"76

1500m 小山倫之(1) 4'21"17

1500m 長谷川祐輝(1) 4'21"90

1500m 岸康太(2) 4'27"15

1500m 遠藤幸生(2) 4'32"97

1500m 栗山顕多(2) 4'46"11

1500m 須藤克誉 (2) 4'31"76

1500m 福永亮 (2) 4'14"02

1500m 佐藤悠介 (1) 4'19"18

1500m 藤井将大 (4) 4'23"69

3000m 高石涼香(1) 11'23"03

3000m 黒岩道子(1) 11'47"85

3000mSC 福島洋佑 (4) 9'36"08

5000mW 棟重賢治(2) 22'07"33

走幅跳 西村智宏(3) 7m56(+0.8)

走幅跳 萩尾公貴(2) 5m86(+0.4)

走幅跳 草野恒平(2) 6m40(+1.3)

8/11 第74回滋賀県陸上競技選手権大会

400m 小西慶治(4) 48"00

8/30 第57回一橋戦

100m 萩尾公貴(2) 12'13(-0.3)

100m 白形優依(3) 13"54(無風)

100m 石丸夏奈(1) 15"01 -0.1

400m 河原未来(3) 67"58

800m 岸康太(2) 2'02"78

1500m 佐藤悠介 (1) 4'15"60

1500m 高石涼香(1) 5'04"88

1500m 黒岩道子(1) 5'13"28

1500m 荒木玲(1) 5'40"07

1500m 堀越美菜(1) 5'49"65

5000m 網谷直紀 (4) 15'21"34

5000m 福永亮 (2) 15'44"04

5000m 伊東祐輝(2) 15'58"13

棒高跳 寶田雅治(2) 2m40

走幅跳 白形優依(3) 5m09(無風)

7. 2015年度 部内五傑

(順位 氏名 (学年) タイム 日付)

男子 100m

1 藤田旭洋(4) 10"62(+2.0) 4.4

2 稲葉啓人(4) 10"80(-0.5) 5.30

3 泉悠太(4) 10"87(+1.1) 7.4

4 飯島靖成(6) 10"93(+1.1) 7.4

5 松本大樹(3) 11"06(+0.6) 5.30

男子 200m

1 稲葉啓人(4) 21"44(-0.9) 8.2

2 西村智宏(3) 21"50(-0.4) 8.2

3 藤田旭洋(4) 21"58(+0.8) 4.19

4 小西慶治(4) 22"10(+1.3) 5.4

4 飯島靖成(6) 22"10(+0.1) 7.4

男子 400m

1 小西慶治(4) 48"06 5.14

2 森本淳基(3) 49"54 5.6

3 兄井啓太郎(2) 49"96 7.11

4 河野太郎(2) 50"56 5.2

5 箕島頌(3) 51"21 5.2

男子 110mH

1 宮原弘季(4) 15"03(+0.5) 5.14

2 杉森康平(6) 15"04(±0.0) 5.6

3 寶田雅治(2) 15"85(-1.2) 8.2

4 加来宗一郎(3) 16"09(+1.4) 4.4

5 中島盛喜(2) 17"34(+0.8) 7.4

男子 400mH

1 宮原弘季(4) 51"36 7.4

2 兄井啓太郎(2) 54"00 5.30

3 越村真至(4) 54"13 5.30

4 加来宗一郎(3) 55"44 5.3

男子 4×100mR

1 泉(4)-西村(3)-
稲葉(4年)-藤田(4) 40"70 5.15

2 泉(4)-西村(3)-
稲葉(4)-藤田(4) 40"71 4.4

3 泉(4)-西村(3)-
稲葉(4)-藤田(4) 40"72 5.14

4 泉(4)-竹井(M2)-
松本(3)-飯島(6) 40"84 5.30

5 泉(4)-西村(3)-
稲葉(4)-藤田(4) 41"21 8.2

男子 4×400mR

1 小西(4)-稲葉(4)-
兄井(2)-宮原(4) 3'12"56 7.4

2 兄井(2)-小西(4)-
森本(3)-河野(2) 3'14"57 5.16

3 小西(4)-稲葉(4)-
森本(3)-兄井(2) 3'14"64 5.17

4 兄井(2)-小西(4)-
森本(3)-宮原(4) 3'16"20 8.2

5 小西(4)-稲葉(4)-
森本(3)-河野(2) 3'16"98 4.4

女子 100m

1 笠村洋子(3) 13"50(-0.2) 7.4

2 白形優依(3) 13"54(±0.0) 8.30

3 高橋奈々(2) 13"96(-0.6) 8.2

4 石丸夏奈(1) 15"01(-0.1) 8.30

女子 400m

1 坪浦諒子(2) 58"76 8.2

2 河原未来(3) 67"58 8.30

3 堀越美菜(1) 70"14 8.2

女子 4×100mR

1 笠村(3)-石丸(1)-
白形(3)-高橋(2) 52"63 8.2

2 笠村(3)-石丸(1)-
白形(3)-坪浦(2) 53"42 8.30

男子 800m

1 軽部智(3) 1'52"31 4.25

2 加藤騎貴(3) 1'54"09 5.16

3 早川航平(2) 1'58"82 5.30

4 戸田賢希(3) 1'59"77 5.23

5 小南直翔(4) 2'00"04 5.3

男子 1500m

1 近藤秀一(1) 3'54"51 6.6

2 軽部智(3) 3'56"30 5.30

3 渥美祐次郎(4) 4'00"72 5.14

4 小南直翔(4) 4'00"37 7.9

5 西川拓(4) 4'01"09 4.25

女子 800m

1 河原未来(3) 2'36"69 7.4

2 荒木玲(1) 2'37"53 7.4

女子 1500m

- 1 高石涼香(1) 5'04"88 8.30
- 2 黒岩道子(1) 5'13"28 8.30
- 3 & 荒木玲(1) 5'40"07 8.30
- 3 & 堀越美菜(1) 5'49"65 8.30

女子 3000m

- 1 高石涼香(1) 11'23"03 8.2
- 2 黒岩道子(1) 11'47"85 8.2

男子 5000m

- 1 近藤秀一(1) 14'21"14 6.13
- 2 渥美祐次郎(4) 15'06"82 7.4
- 3 小松息吹(5) 15'12"31 4.4
- 4 網谷直紀(4) 15'21"34 8.30
- 5 福島洋佑(4) 15'23"40 8.30

男子 10000m

- 1 網谷直紀 (4) 32'41"20 4.29
- 2 松本啓岐 (2) 32'50"23 4.25
- 3 田村和也 (2) 33'30"95 4.29
- 4 織原健人 (3) 34'15"49 4.25
- 5 坂井優太 (2) 37'10"13 4.25

男子 3000mSC

- 1 福島洋佑 (4) 9'36"08 8.2
- 2 伊藤嘉宏 (4) 10'01"21 7.4
- 3 福永亮 (2) 10'07"96 7.4
- 4 荒田彰吾 (3) 10'09"70 3.28
- 5 張恭輔 (2) 10'23"46 7.4

男子 ハーフマラソン

- 1 小松息吹 (5) 69'21 4.12
- 2 渥美裕次郎 (4) 69'27 6.7
- 3 網谷直紀 (4) 70'03 4.12
- 4 福島洋佑 (4) 72'52 6.7
- 5 織原健人 (3) 75'40 6.7

男子 5000mW

- 1 渡邊成陽(3) 20'38"73 7.4
- 2 棟重賢治(2) 22'07"33 8.1
- 3 宇野文貴(3) 22'28"52 7.4
- 4 櫻井悠也(3) 24'21"61 7.4
- 5 堀江駿(1) 24'32"73 8.22

男子 10000mW

- 1 渡邊成陽(3) 43'18"33 5.16
- 2 棟重賢治(2) 45'42"49 5.2
- 3 宇野文貴(3) 48'56"64 5.2
- 4 櫻井悠也(3) 52'27"69 3.25

女子 5000mW

- 1 宮崎愛里香(4) 27'47"54 7.4

女子 10000mW

- 1 宮崎愛里香(4) 58'43"16 5.15

男子走幅跳

1. 西村智宏 7m56(+0.8) 8.2
2. 飯島靖成 7m08(+0.5) 7.4
3. 深澤竜太 7m07(+1.2) 5.4
4. 吉田侑弥 6m98(+0.9) 5.4

5. 佐渡夏紀 6m94(+1.4) 3.14

男子三段跳

1. 吉田侑弥 14m94(+1.7) 5.15
2. 木下秀明 13m88 8.2
3. 田中恭平 13m59(+2.0) 5.2
4. 沢登良馬 13m36 7.4
5. 長井佑馬 13m24 5.30

男子走高跳

1. 福永大輔 2m03 5.15
2. 木下秀明 1m85 8.2
3. 寶田雅治 1m75 5.3

男子棒高跳

1. 上野隆治 4m50 4.4
2. 松下周平 4m40 5.4
3. 戸部潤一郎 3m40 8.30
4. 寶田雅治 2m40 8.30

女子走幅跳

1. 白形優依 5m09(無風) 8.30

8. 主務より

8.1 応援OB・OG紹介

七大戦・一橋戦におきまして競技場まで応援に駆けつけてくださったOB・OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします(敬称略)。

【七大戦】

- S54 中谷敬二
- S58 八田秀雄
- H3 小野満
- H3 馬場勝也
- H13 岡野浩行
- H15 橋本武
- H17 藤田靖浩
- H22 西川鋭
- H23 近藤堯之
- H23 斉藤瞬也
- H23 園部竜也
- H23 西田昂広
- H23 渡邊拓也
- H24 竹内真裕
- H25 大澤渉
- H25 真木伸浩
- H25 山下修平
- H26 塩見真一郎
- H26 高森一
- H26 張珉箕
- H26 松原洸也
- H26 梁瀬将史
- H27 今須宏美
- H27 上野隆治
- H27 岡島弘明
- H27 栗田徹士
- H27 後藤拓矢
- H27 篠田天馬
- H27 二宮翔平

H27 花岡さくら
 H27 原知明
 H27 丸野幹人
 H27 横田絢
 H27 山田銀河

【一橋戦】

S54 中谷敬二
 S58 八田秀雄
 H3 小野満
 H13 岡野浩行
 H15 橋本武
 H17 藤田靖浩
 H23 近藤堯之
 H23 西田昂広
 H23 渡邊拓也
 H26 八子基樹
 H26 梁瀬将史
 H27 荒井太弥能
 H27 今須宏美
 H27 津田聖
 H27 原知明
 H27 横田絢

8.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

9/11(金)～13(日) 日本インカレ@大阪・長居

10/10(土)	京大戦@駒場(予定)
10/17(土)	箱根駅伝予選会@立川

8.3 連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二	
TEL	: 03-5370-9370
Mail	: Seiji_Saito@suntory.co.jp
学生主務：鈴木敦士	
〒174-0053 東京都板橋区清水町 38-1-605	
TEL	: 080-6943-2138
Mail	: shumu@uttf.org
学生主務補：千田周平	
Mail	: uttf.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.uttf.org>

学生主務 鈴木敦士